

令和2年度 浜田ろう学校 学校評価表

平均：A4点、B3点、C2点、D1点を合計し、人数（25-Eの人数）で除した数値

	重点目標	アンケート結果					自己評価		学校関係者評価		
		A	B	C	D	E	平均	評価	成果と課題、改善策	評価	意見
幼稚部	◎わかる経験を積み重ね、相手に自分の思いを伝えようとする気持ちや意欲を育てる。	12	12	0	0	1	3.5	B	・目標達成のための方策を丁寧に積み重ねることができた。教員の創意工夫が、幼児の成長につながっている。 ・引き続き丁寧なかかわりの中で言葉の育ちを促したい。	B	・全体的にAとBに集中しており、重点目標に達していると感じられる。子どもたちに学習内容が理解できるよう、様々な工夫がなされていることがわかり評価できる。 ・集団活動の中から、子ども一人一人の課題を達成できるよう努力されている。集団の重要性は理解できるが、本校では集団構成が難しく、どのように集団を拡げるかが課題であると思われる。 ・コロナ禍で制限がたくさんあった中で、パソコン、タブレット、プロジェクターなどICTの活用を進めてきたことを高く評価したい。 ・高等部の県外でのインターンシップの機会提供があるなど、生徒一人一人の進路を模索する取組はよい。今後も就職、進学等幅広い進路を開拓してほしい。進学先や就職先での情報保障が難しい状況もあるので、どこでも合理的配慮に対応できる社会をめざすため、理解啓発を進めてほしい。 ・学校だよりから、コロナ禍でも創意工夫しながら行事が行われていることを知った。今後も継続を期待する。
小学部	自分や友達のおさや違いに気づいて、受け止めようとする態度を育てる。	23	1	0	0	1	4		・校内からもよい評価をいただいた。日常的に児童の情報交換が十分なされたことや、集団活動における環境設定の工夫により、教員間の連携の元で集団と共に成長していく児童の姿を実感することができた。		
中学部	自分の課題を意識しながら学習に取り組む姿勢を育て、学力の定着を図る。	9	14	0	0	2	3.4		・個々の生徒の特性や学力、進路等に関する情報を共有することができた。 ・生徒の実態に合わせて授業内容を柔軟に編成したり、実力テスト、検定試験等を活用して学習意欲の向上を図ったりすることができた。来年度以降のカリキュラム編成や授業構成に生かしていきたい。		
高等部	卒業後の自己のあり方を主体的に考える力を育て、学力の定着を図る。	11	10	2	0	2	3.4		・児童生徒会等の場面で、より伝わりやすい方法を学期の目標に設定しながら生徒と一緒に模索した。 ・卒業後の想定される進路先について、3回の現場実習に行った。感慨でのインターンシップに生徒が1人で参加する機会を提供することができた。		
教育相談 通級指導	聴覚障がい、視覚障がいについて、地域の教育機関および関係機関に情報を発信したり共有したりして連携を図る。	13	10	0	0	2	3.6		・難聴学級生徒に対して、指導の相談や学校見学への協力など校内で協力を得て、担当者も一緒に学ぶことができた。 ・研究部との連携による、校外の難聴児在籍校に情報発信していくことが課題である。		
総務部	健康相談を実施し、自分の健康状態について伝えることができる。	10	9	0	0	6	3.5	B	・中高生の健康相談の取組では、痛みの表現や新型コロナウイルス感染症コールセンターFAX用紙への記入練習を通して自分の状況や病状の伝え方について各自の課題が見えてきた。 ・中高部担任に十分理解してもらいながら実施できた。教職員全体への発信が難しかった。	B	・少ない教職員数であるが、それぞれの分掌において具体的な取組がなされている。今後は、新学習指導要領の実施に伴い、分掌の方からも新しい取組が見られることを期待する。 ・ICT活用について課題があがっているが、情報機器に詳しい教員に負担がかかることもあり、誰もが操作できるよう簡易的なマニュアル化などの工夫があってもよいと思われる。 ・コロナ禍で校外の人材を招くのは難しかったと思うが、今後はリモートの活用も有効だと考える。取り入れてほしい。 ・太鼓発表を校外で発表できたことはよい取組である。また児童生徒会でも公民館等と連携していることはよい取組である。今後も校内で完結するのではなく校外で実施する機会をつくってほしい。 ・限られた予算の中で、児童生徒、教職員の安全を配慮しながら、このコロナ禍を乗り越えていこうとされることが見受けられ評価したい。
教務部	授業力向上のために、ICT機器を活用した学習指導を工夫する。	1	13	6	1	4	2.7		・今年度タブレット等の機器は整備されたが、どのように活用していくかが課題である。活用に関する情報発信や研修の場を計画的に設定する必要がある。 ・ICTの管理と活用について役割分担の明確化や校内体制の整理が必要である。		
指導支援部	児童生徒会活動の取組の様子や、進路実現に向けての情報を発信する。	9	15	0	0	1	3.4		・児童生徒会の取組の発信について、廊下を活用したことで、たくさんの人に見てもらうことができた。来年度も子どもたちがやりたい気持ちを大切にしたい。 ・進路だよりを学期1回発行し発信できた。中高部の実習については、より全教職員に知ってもらう発信の工夫が必要である。		
研究部	研究や研修をとおして、教員一人一人の聴覚障がい教育に関する専門性の向上を図り、幼児児童生徒への支援指導に生かす。	13	12	0	0	0	3.5		・来年度も、年2回の研究授業を計画し、各学部リクエストの講師に交渉していく。 ・聴覚障がい教育の基本的な内容を自立活動研修で網羅した。知識をもとに実態把握をしながら実践を重ね、資料を活用して個々の学びも必要である。		
事務部	◎安心・安全な環境で教育活動が行えるよう施設の維持、修繕に取り組む。	16	8	0	0	1	3.7		・校内巡視や教職員からの連絡によって、校内の危険箇所を把握し、予算の範囲内で適宜修繕を実施し、安心安全な教育環境を維持できた。		

A:よくあてはまる B:ほぼあてはまる C:あまりあてはまらない D:改善してほしい

評価項目		A	B	C	D
保護者の評価	<学校生活>お子さんは学校生活を楽しく、喜んで登校していると感じますか	9	2	0	0
	<学力の保障>お子さんの聴覚障がいに配慮して、わかりやすい保育や授業が工夫され、指導支援がなされていると感じますか	7	4	0	0
	<日本語の獲得>補聴器や人工内耳により聴覚と様々なコミュニケーション手段を活用して、読み書きや考える力がついてきていると感じますか	4	6	1	0
	<支援・指導>学部や学級の通信や懇談は、お子さんの教育の内容を理解でき、ねらいや思いを共有するものとなっていますか	6	5	0	0
	<自己理解力①>お子さんは自分の得意なこと等を見つけて、前向きに生活をおくっていると感じますか(全員)	6	5	0	0
	<自己理解力②>お子さんは自分の障がいや特性を理解して受けとめ、前向きに生活をおくっていると感じますか(中高部のみ)	1	2	0	0
	<保護者支援>学校や教職員とは、様々な機会において相談しやすいと感じていますか	5	6	0	0